

平成 30 年 6 月 16 日

平成 30 年度アーバンデザインスクール前期
歩いて巡りたくなる地域の魅力の伝え方
～カルチャー、ストラクチャー、ストーリー、ストリート、プレイス～

第 1 回 草津の歴史と自然

草津市教育委員会文化財保護課 馬場 将史

概要

文化（カルチャー）は、その地域の地形や気候などの自然条件（ネイチャー）、そして地理的な位置づけ等により、様々な活動が起こります。その活動の積み重ねにより時々の文化が育まれています。草津市の場合は西側に日本最大の湖の琵琶湖があり、近江大津宮、平城京、平安京など、古代の都の近くにありました。また南東部には山地・丘陵があり、江戸時代には川底の砂を何度も浚渫することにより、草津川をはじめとした天井川が徐々に形成されました。

今回の発表では、奈良に都があった時代から、近代までの歩みを地形の変化、都の変遷などの政治状況を見据えつつ、草津市の文化財を紹介します。

そのあと、先日、日本遺産の追加認定をうけた「芦浦観音寺」と「サンヤレ踊り」を紹介し、最後に今年度策定する「歴史文化基本構想」について御紹介させていただきます。

1. 草津市の自然

古代から現代までの地理的な変化を紹介します。

2. 草津市の古代

現在の滋賀県、京都府、奈良県に都が転々と移動していた時代。

花摘寺跡、宝光寺跡、笠寺廃寺など、草津市には古代寺院跡とされる遺跡が存在し、さらに、後ほど紹介する芦浦観音寺も、この時代に作られたと寺伝にあります。

その頃の草津は現在の野路東、立命館大学がある瀬田丘陵では製鉄・鑄造など複数の生産工房が広がっていました。こういった製鉄など生産行為には多くの燃料が必要であり、森林資源が豊富なこの地が選ばれました。道路が整備され鉄道が輸送手段となり久しい現在では想像が付きませんが、瀬田川から木津川を經由し、奈良の都まで木材などが運ばれていました。

* 常盤の歴史的建造物、野路小野山製鉄遺跡、木瓜原製鉄遺跡

3. 草津市の中世から近世初頭

約400年続いた平安時代も終わりを告げ、世は戦国時代となります。

比叡山延暦寺も一大勢力となり、隆盛を極めていましたが、織田信長により、焼き討ちにあい、勢力を落とします。

当時の琵琶湖は、京へ行き来するためのいわば大動脈として機能しており、「近江を制するものは天下を制す」と言われる時代になりました。その時代に湖上交通を管理・掌握する”船奉行”を務めたのが芦浦観音寺です。芦浦観音寺の詮舜は豊臣秀吉に重用され、比叡山延暦寺の再興にも尽力します。

詮舜の没後は甥の朝賢が跡を継ぎ、関ヶ原の戦いで敗れた西軍にくみしたにもかかわらず、従来通り船奉行に任じられました。しかし、近世に入り江戸幕府の代官肅清とともに観音寺も代官職を免ぜられ、琵琶湖の湖と交通を掌握する、船奉行の職務を免じられません。

* 芦浦観音寺

4. 草津市の近世

徳川家康により天下統一がなされ、また街道制度により街道や宿場が整備され、街道文化が花開きます。

また東国から経済の中心である大坂への物資の輸送も西廻り航路の開発により琵琶湖の南北の湖上交通が衰退していきます。この時代の草津は東海道と中山道が合流する宿場町として栄え、志那街道や矢橋道など街道、そしてそれらに通じる志那港、矢橋港など港を利用して往来する人々で、草津はにぎわっていました。

* 本陣、矢橋の渡し

5. 草津市の近代

明治となり、鉄道の時代になります。その時代でも琵琶湖は交通の要衝であること変わりなく、明治13年に大津 - 京都間、明治17年に敦賀 - 米原間に鉄道が開通してもなお、琵琶湖を走る蒸絡船は鉄道の連絡船として機能していました。このように湖上交通が発達していたこともあり、長浜 - 大津間の鉄道開通は東海道線最後(明治22年)に整備され、これにより連絡船は廃止されました。そして、交通の中心は琵琶湖の湖上交通から、鉄道などによる陸路へと完全に変わってしまいました。

* 蒸気船

6. 日本遺産 「芦浦観音寺」「サンヤレ踊り」

「琵琶湖とその水辺景観 - 水辺の祈りと暮らしの水遺産」として草津市の「芦浦観音寺」と「サンヤレ踊り」が認定されました。その認定理由と概要を御紹介します。

7. 草津市歴史文化基本構想の紹介

最後に、今年度策定する「草津市歴史文化基本構想」について御紹介します。

以上